

なかつか 亮



品川区議会第2回定例会始まる(6月19日~7月3日)

「介護職員の人材不足」「高すぎる学費」

「八潮のごみ処理施設」 —なかつか亮の一般質問—

3つのテーマを本会議で取り上げ、改善求めました

第2回定例会が始まりました。初日から始まる本会議では、共産党からなかつか亮と菊地貞二区議が一般質問。共産党が議員提案した「高齢者入院時負担軽減条例」は、飯沼雅子区議が提案説明を行いました。いよいよ区議会が開幕。くらしを守り、福祉充実のためにがんばります。

第2回定例会

条例17件

請願・陳情16件

今定例会では、区長より16件、共産党より1件の条例が提案されました。

共産党が提案した高



齢者の入院時に対する負担軽減(月1万円を上限に75歳以上の区民が対象)の条例は、全会派に共同提案の申し入れを行いました。6月18日の議会運営委員会にて、自民、公明、民主など6会派から「共同提案はできない」旨の回答があり、残念ながら、共産党の単独提案となりました。

住民よりの16件の請願・陳情が議会に提出され、うち14件が各常任委員会に付託され、6月23、24日に審査されました

条例や請願・陳情の審査については、次号以降にお知らせします。

なかつか亮の一般質問の主旨は裏面をご覧ください。裏へ



19日3時、なかつか亮の本会議質問の様子。議会傍聴に地域の方も集まって頂き、私も勇気100倍。ありがとうございました。

介護・福祉職員の人材不足は深刻、品川区は打開のために力を注ぎ

学費や八潮問題は次号以降に掲載します。

ワーキングプア

働きながらも生活できないワーキングプアは全国1千万人。その1つが介護や福祉現場の職員です。私は待遇改善、人材不足打開を求めました。

「月14万円では生活できない」「離職がとまらない」

私は、一般質問に先立ち、介護施設の聴き取り調査を行いました。

介護福祉士の方は「常勤の手取りは月14〜15万円。月4回の夜勤をやっても21万円です。やりがいのある仕事でも、これでは生活できない。気持ちと体がついていかず、やめちゃうひとが多い。

人がたりず夜勤が6回の月も。1人暮らしてできない介護の給料では希望が持てない」と話します。

施設長は「募集をしてもあつまらず、結局、常勤に夜勤のしわ寄せがおき、ハードな仕事と低い給与では離職がとまらない。結婚して子どもができてとなると、この給与では生活は無理。福祉をめざした志が受け止められる状況にしなければ」と話します。

残った職員は、仕事がさらに忙しくなり、離職を生む悪循環。質問では、こうした実態を示し、安心できる高齢者の最後の生活を支えるため、十分

な体制が必要と、区に労働条件の改善に向けた「独自策」（千代田区では今年4月から実施）を求めました。

原因は介護報酬

人手不足の原因は自民・公明政権が進めた利用者には負担増とサービス制限を行ういっぽうで、事業所に対する介護報酬を引き下げた事です。

実際に今年6月の東京都調査で、特養及び老健の7割以上の施設長が、緊急に解決の必要な課題に「人材確保」をあげ、8割以上が人材確保が困難な理由を「給与水準が低い」と回答しました。また、勤続年数は特養

ホームは5.1年、老健施設は3.7年と短く、離職の深刻さを示しました。

区「考えていない」

品川区は介護現場の状況は認めながらも、独自策の実施は「考えていない」と答弁しました。

私は引き続き、ヘルパーや介護ステーションなどの実態も調べ、取り上げたいと思います。

区民には高い介護保険料と利用料、そこで働く職員には生活できない低い給料。共産党は、その抜本的な改善に向け昨年12月に「緊急提案」も発表しました。安心できる介護制度実現にがんばります。なかつか亮

次回の『気軽な町の無料法律相談会』のお知らせ

7月11日(金) 午後6時～8時 会場：日本共産党なかつか亮事務所
弁護士と一緒に相談会を行います。生活のこと法律のこと、お気軽にご相談ください
連絡先 昼：区議控室 5742-6818 夜：事務所 3773-3231